

コミットメントと財政の持続性

慶應義塾大学
小林慶一郎

コミットメントと合理性

- ▶ コミットメント: 将来の自分の行動を事前に約束すること
- ▶ 合理的であること(目的を合理的に追求すること)は、必ずしも、コミットメントを守ることにならない。
 - ▶ 「約束を破る」ことが合理的な行動になり得る。
- ▶ 合理性≠将来世代の利益を重視すること
 - ▶ 将来世代のことを考えない利己的効用を「合理的」に追求することは可能

世代間のコミットメントは可能か

- ▶ 財政再建とは、「世代を超えた投資」
(Inter-generational Investment)
 - ▶ 現在世代： 増税と歳出カットの**コスト**を支払う。
 - ▶ 将来世代： 財政破綻の回避という**リターン**を得る。
- ▶ 地球温暖化対策
 - ▶ 現在世代： **コスト**をかけて温室効果ガスの排出削減
 - ▶ 将来世代： 環境破壊の回避という**リターン**を得る
- ▶ 原発の使用済み核燃料の最終処分場建設
 - ▶ 現在世代： 場所決定の政治的**コスト**を支払う。
 - ▶ 将来世代： 放射能汚染の回避という**リターン**を得る。

財政再建先送り

現在

近未来

遠未来

親世代

若年期

老年期

若年期

老年期

子世代

財政破綻:20

財政再建実施

現在

近未来

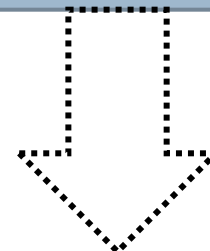
遠未来

親世代



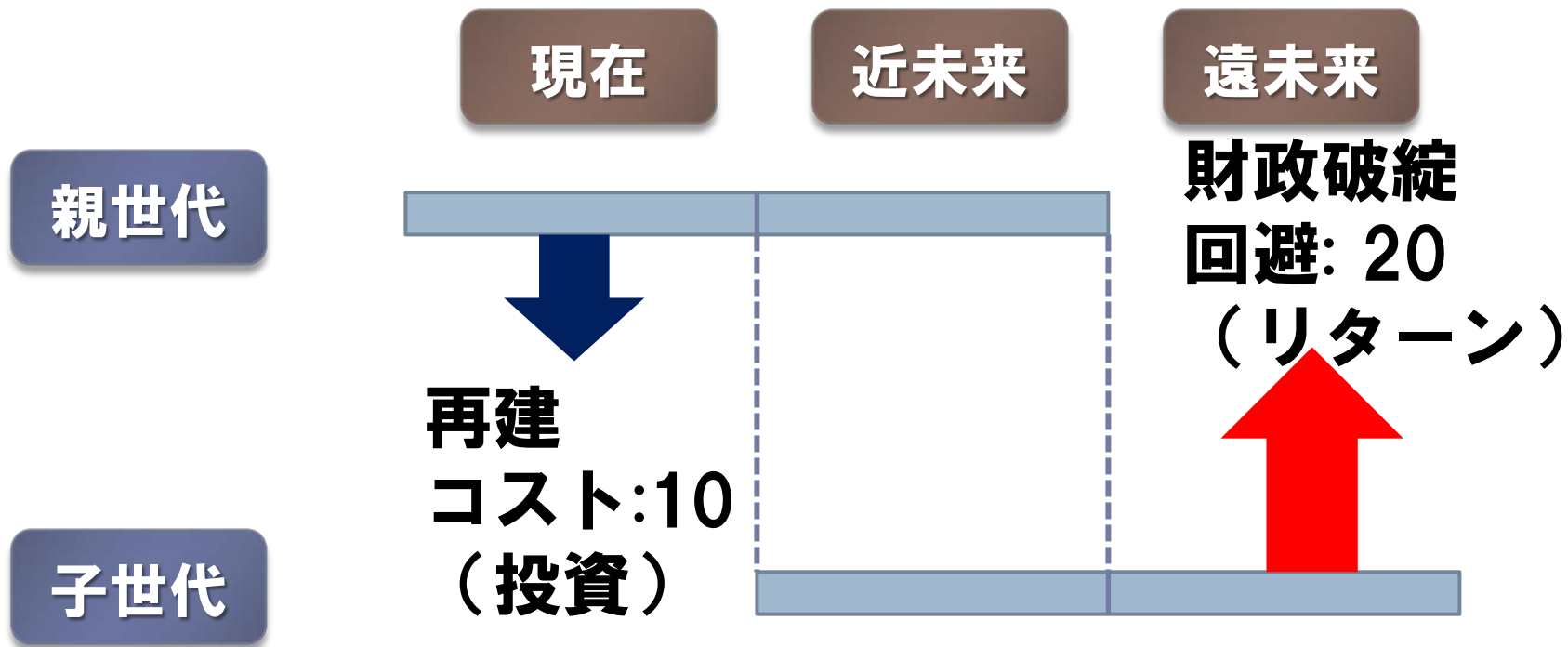
再建
コスト:10

子世代

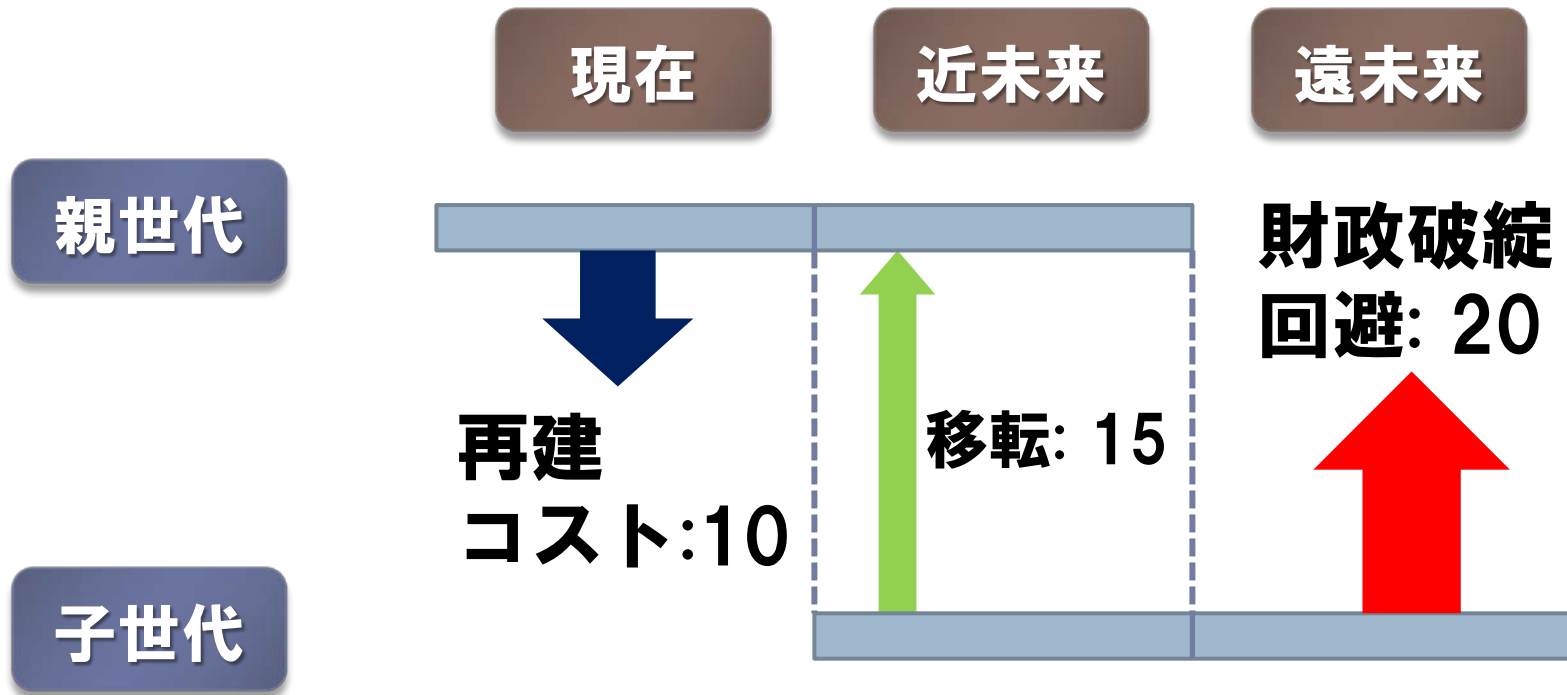


財政破綻:0

財政再建を「投資」と見ると・・・



財政再建のスキーム図



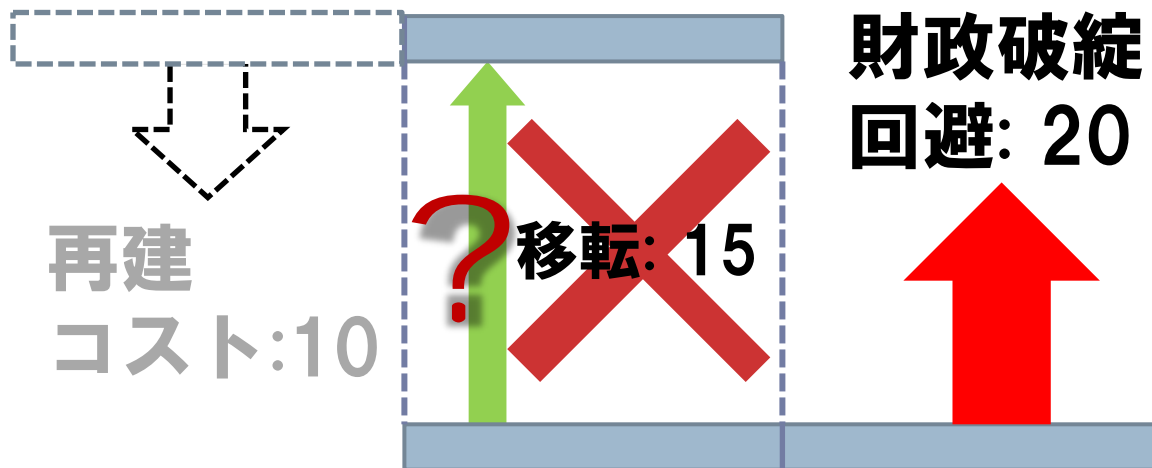
子世代はコミットメントを維持するか？

現在

近未来

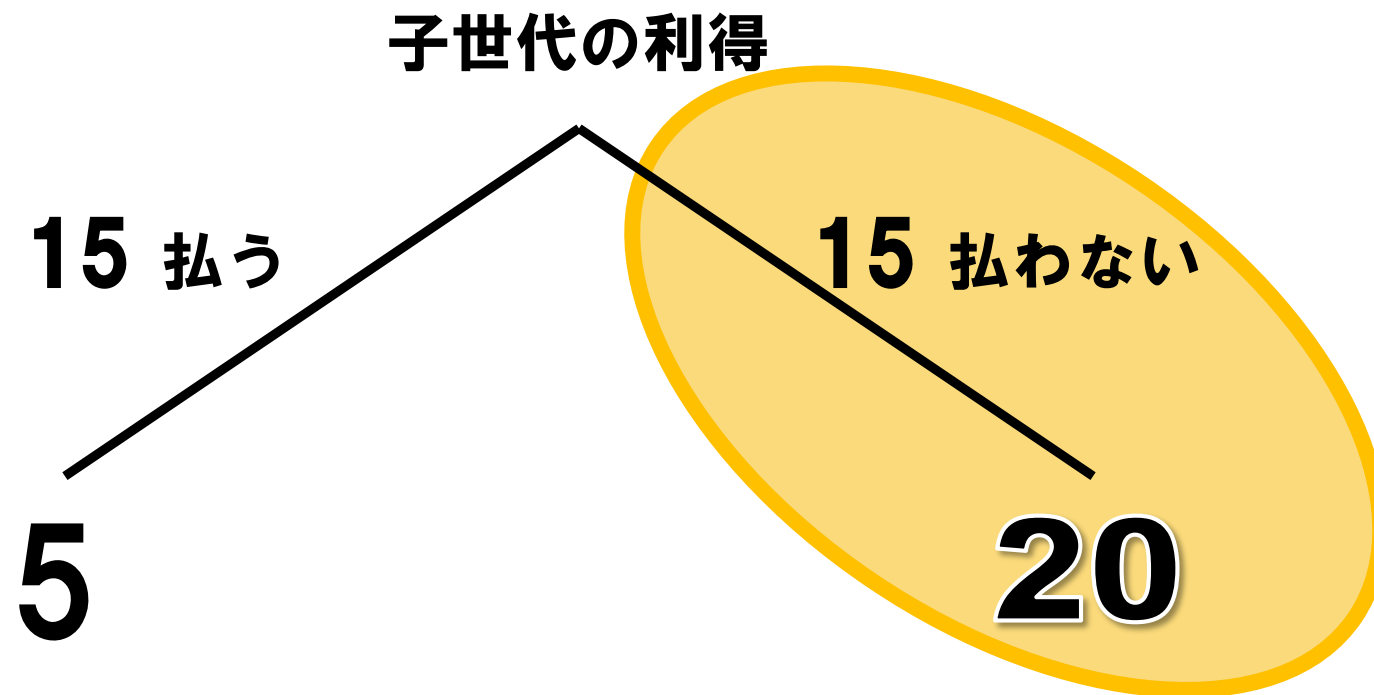
遠未来

親世代



子世代

子世代の利得



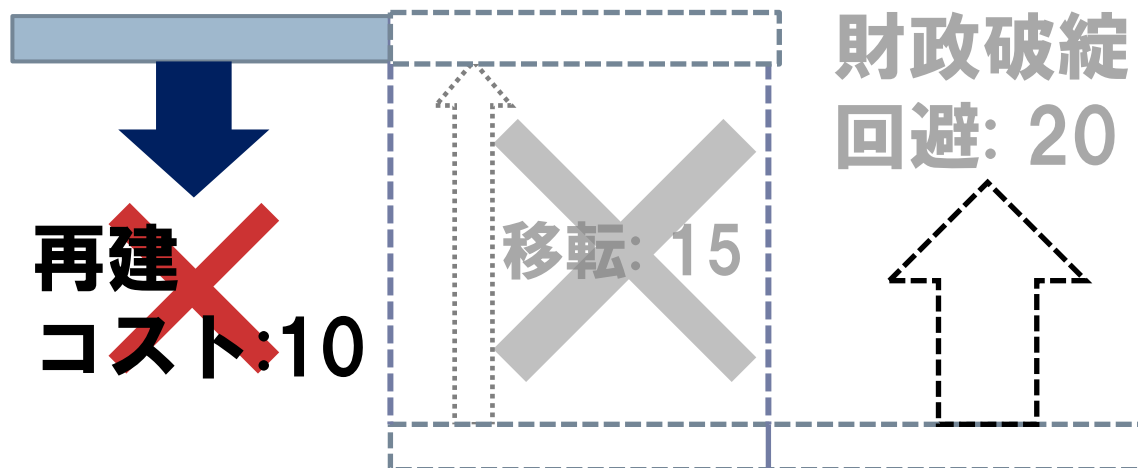
親世代も財政再建しない

現在

近未来

遠未来

親世代



子世代

新しい政治哲学とは

- ▶ 世代を超えた超長期の政策プロジェクトは、現代社会では**実現不可能**（世代間コミットメントの不可能性）
 - ▶ 現代社会 = 利己的かつ合理的個人の社会
 - ▶ かつては非合理性（宗教や伝統文化）が世代間コミットメントを実現していた。
- ▶ 将来世代への利他性を高める政治哲学の必要性
 - ▶ マイケル・サンデルの「共和主義」？
- ▶ **世代を超える政策課題を作らない！**